

ニュース

生まれ変わる熊本市・桜の馬場地区

熊本城内プール跡地に3月5日オープン



▲内見会であいさつする運営担当者。左から櫻井宰城彩苑湧々座事務局長、高橋修二トータルメディア開発研究所本部長、丸本文紀熊本城桜の馬場リテール社長、津曲俊博熊本市観光政策課観光審議員、佐々博文熊本城桜の馬場リテール常務執行役員



▲城彩苑の入り口付近からの外観



▲飲食物販施設の「桜の小路」には飲食店5店、飲食物販兼営店2店、物販店16店の合計23店舗が出店。郷土料理や県産品も販売する▼



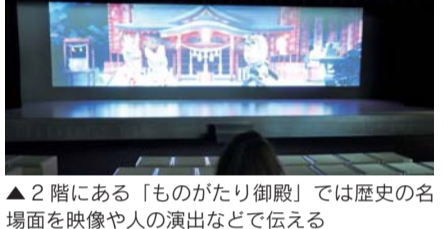
▲最新鋭のVR(バーチャルリアリティ)で熊本城を復元



▲加藤清正の肥後入国から細川家の時代、西南戦争までの熊本の歴史を紹介。1階中央床面は熊本城周辺の写真・地図などの映像が変化する



▲歴史文化体験施設「湧々座」の外観



▲2階にある「ものがたり御殿」では歴史の名場面を映像や人の演出などで伝える

歴史体験と熊本ゆかりの飲食物販の複合施設

「桜の馬場 城彩苑」

熊本市二の丸の旧熊本城内プール跡地に建設が進められていた「桜の馬場 城彩苑(じょうさいえん)」が3月5日のオープン前に、報道関係者等へ披露された。

同施設は今年3月12日の九州新幹線の全線開業に合わせて、熊本市と凸版印刷グループの熊本城観光交流サービス、第3セクターのまちづくり熊本を中核とした熊本城桜の馬場リテールが共同で桜の馬場地区に建設。城彩苑は歴史文化体験施設の「湧々座(わくわくざ)」と飲食物販施設の「桜の小路(さくらこうじ)」の2つのゾーンに分かれており、建物も白と黒を基調にした当時の武家屋敷をイメージした造りになっている。

「湧々座」は、一部2階建てで1階には総合観光案内所を設けたほか「熊本今昔物語」コーナーとして、加藤清正の肥後入国から細川家の時代、さらに西南戦争までの熊本の歴史と城下町を解説。特に最新鋭のVR(バーチャルリアリティ)では、映像で江戸中期の熊本城探索が観れる。2階には貸し出しできる多目的交流室のほか、「ものがたり御殿」コーナーとして熊本城を眺めながら、城の変遷、熊本の年中行事を伝える熊本城ビューラウンジ、歴史の名場面を映像や寸劇が観れる湧々座などがある。

一方、「桜の小路」には飲食店5店舗、飲食物販兼営店2店舗、物販店16店の合計23店舗が出店している。飲食は細川家古料理を再現した日本料理店、馬肉・阿蘇の赤牛溶岩焼き、高菜めしなどを出す茶屋、天草直送の海産物をジュップ方式で味わえる海鮮料理店など。物販では熊本名物「からし連根」「馬刺し」「いきなり団子」の人気店や阿蘇・天草・五木、五家荘、芦北・水俣といった県下各地の農水産加工品・名産品から、熊本銘菓、熊本ワイン、珍味などを揃えている。

「湧々座」の営業時間は午前8時30分から午後5時30分まで、「桜の小路」は物販が午前9時から午後7時、飲食が午前11時から午後10時までとなっている。定休日は12月29日から31日まで。駐車場は有料(一部自転車等は無料)。

新たなくまもとのお土産・21商品を発表

県と熊本市が共同企画



▲熊本の新しいお土産商品を発表する蒲島知事と幸山熊本市長

熊本県と熊本市は2月4日、熊本城本丸御殿大広間で県産丸御殿を使った新たな熊本のお土産商品「くまもと うまカモン!」の発表会を開いた。

3月12日の九州新幹線全線開業に向け、新しい熊本のお土産品を開発しようとして昨年4月の開発セミナーを皮切りに、約1年をかけて完成。商品検討委員会を設置し、応募があった152商品から21商品を選定。商品化に向けたブラッシュアップを経て、熊本の新しいお土産品として完成した。

熊本の新おみやげ「くまもと うまカモン!」21商品

- 熊本市選定(9品目)
- ◇ TOMA TO ME SAUCE(とまとみそす)
- ◇ 黒熊本揚餅
- ◇ 牧場主が作ったぎゅーと乳(NEW)アイス
- ◇ あか牛地産外消プロジェクト あか牛しぐれ煮・あか牛カレー・あか牛肉みそ
- ◇ KUMAMOTO マカロンクッキー
- ◇ さくらジャワ風カレー
- ◇ 肥豚豚炭火焼
- ◇ 熊本づくしウインナー
- ◇ 豆腐のもろみ漬け

- 熊本県選定(12品目)
- ◇ 阿蘇の草原 とぶ牛クッキー
- ◇ 柚子こしょうのじゃこ煮
- ◇ ばってんいも丸
- ◇ いきなり団子
- ◇ ハイヤおばちゃんのしっとりふりかけ
- ◇ 国産晚白柚蜂蜜
- ◇ さくらドーナツ棒
- ◇ 南関あげ巻寿し
- ◇ 南阿蘇こだわりプリン
- ◇ 山ーのごはんにグー 食べるラー油と阿蘇たかな漬
- ◇ やまえ栗 100% 使用渋皮煮
- ◇ 鮎屋三代 鮎のやわらか煮・鮎のしぐれ煮・子持ち鮎のやわらか煮